

## 令和元年度第2回平塚市地域包括支援センター運営協議会会議録

日 時 令和元年11月21日(木) 10時00分～11時30分

場 所 平塚市役所本館5階519会議室

出席者

○ 委員12名

鈴木委員、伊藤委員、木村委員、小島委員、上野委員、今村委員、小川委員、石橋委員、中村委員、小林委員、平林委員、三橋委員

欠席1名：宮崎委員

○ 事務局8名

津田福祉部長、中村地域包括ケア推進課長、佐藤高齢福祉課高齢者相談支援担当長、笹井介護予防担当長、相原医療・介護連携推進担当長、大関主査、横山主査、奥山主事

○ オブザーバー2名

地域包括支援センターひらつかにし 深堀管理者、地域包括支援センター富士白苑 鈴木管理者

開 会

1 あいさつ

2 議題

3 報告事項

<以下、進行は今村会長>

議事に入る前の報告事項

平塚市地域包括支援センター運営協議会規則第5条第2項により、定足数である過半数の委員の出席を得て、成立いたしております。また、この運営協議会は平塚市情報公開条例第31条により公開となっており、会議の傍聴につきましては、平塚市附属機関の会議の公開に関する要綱のとおり、取り扱うことといたします。会議の傍聴者は0名。

2 議題

議題(1) 令和元年度地域包括支援センターの前期ヒアリング結果について

<事務局>

資料1-1、1-2に基づき、地域包括支援センターの前期事業評価について、説明を行った。好事例として、オブザーバーから補足説明を行った。

<地域包括支援センター富士白苑>

「外出の促進」の取組として、後期に実施予定のお散歩サロンを立ち上げる準備を進めている。対象者を70代男性に絞って、民生委員などと協力して準備をしている。サロンと言っても、場所がある訳ではなく、自宅から近い距離、例えば公民館などへ包括職員と一緒に出かけに行くような取組から始めたいと考えている。ゆくゆくは、地域のサロンに参加して

もらえるようになることを目指している。

意見・質問

<委員>

認知症サポーター養成講座の開催の実績の欄に、「繁田ハウス」とあるが、標記としては、「SHIGETA ハウス」となるので、訂正をお願いしたい。

<事務局>

訂正する。

<委員>

相談支援業務の取組「地域包括サポート医の活用」とあるが、医師会からも医師を講師として派遣していると思う。実施した後の医師会への報告もお願いしたい。

<事務局>

今後報告していきたい。

<委員>

権利擁護事業の「認知症初期集中支援事業の対象者把握」の項目で、各地域包括支援センターによって、タブレットの活用などにばらつきがあるとの説明を受けたが、その理由は何か。

<事務局>

現在使用しているタブレットは、神奈川県から借りているもので、実施したタイミングにもよるが、診断を行ってから結果が出るまでに2ヶ月半～3ヶ月かかってしまうことや、そもそも対象者が少ない地域があるといった理由が考えられる。

議題（2）令和2年度地域包括支援センターの事業計画（案）について

<事務局>

資料2に基づき、来年度の事業計画（案）及び今後の策定の流れ等について説明した。

意見・質問

<委員>

タブレットではなく、インターネットを使った（認知症診断の）平塚市版のスクリーニングのページがあったと思うが、今は使っていないのか。

<事務局>

簡易チェックのページは今もあるが、簡易なものになるというのと、インターネットが使える環境にないと使えないものになる。今ある簡易チェックは、それぞれ個人で行ってもらい、参考としてもらいたい。ただ、それでは次に繋がらない。今回（導入予定）のタブレットについては、説明者が一人付いて行き、きちんと把握が出来るようになる。認知症の疑いがある方は、もう少し詳しく検査が出来るプログラムがあるので、そちらに移行していただき、さらに細かいチェックをしていただき、支援につなげたいと考えている。

<委員>

新しいシステムが整うまで時間がかかるのであれば、今（自分の状態を）知りたいという方には、すでにある簡易チェックをもっと活用した方がよいと思う。

< 委員 >

(新たに追加される)「終末期に向けた住民への普及啓発」の項目のところで、平塚市では、検討会というようなものが立ち上がっているのか。

< 事務局 >

検討会は立ち上がっている。平塚市成年後見利用支援センター職員、地域包括支援センター職員の代表、認知症地域支援推進員の代表、平塚市在宅医療・介護連携支援センター職員、高齢福祉課職員、地域包括ケア推進課職員が委員となって、検討を進めている。

< 委員 >

説明の中で、終末期に向けた話は難しいとあったが、「終末期」という文言が変えられないか、ということか。

< 事務局 >

「終末期」という文言だけではなく、「終末期」自体を考えることに抵抗があるという方が多いと、地域包括支援センター職員からは聞いている。「終末期」イコール「死」ではなく、これからどう生きるかということが大切、という考え方を啓発していきたいと考える。

< 委員 >

「終末期の普及啓発」に関して、独自に行っている地域包括支援センターもあると聞くが、それぞれの地域包括支援センターが地域に応じた形で行っているのか。

< 事務局 >

すでに独自に行っている地域包括支援センターもあるが、出来る限り平塚市として同じ内容の啓発が出来ればと考えている。

議題(3) 指定介護予防支援事業所(地域包括支援センター)の实地指導について

< 事務局 >

本年度実施した实地指導について、結果を報告し、口頭指導事項について説明した。

< 委員 >

意見なし。

議題(4) 第8期高齢者福祉計画に向けたアンケート調査について

< 事務局 >

今年度実施するアンケート調査についての説明と来年度の計画策定スケジュールについて説明した。

< 委員 >

交通に関して、バスの本数が少なくなるなど、買い物難民の問題もあるので、アンケート調査の項目にあれば有効と考える。

### 3 報告事項

(1) 介護予防・日常生活支援総合事業のサービス提供実績について

<事務局>

資料5に基づき、介護予防・日常生活支援総合事業の成果や傾向について、地域包括支援センターの取組が大きく影響しているため、情報提供を行った。

(2) 保健事業と介護予防の一体的な実施について

<事務局>

資料6に基づき、国の動きとして「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」に至った背景や国が考える基本的な仕組みについて情報提供を行った。また、来年4月1日からの施行に向け、平塚市でも取組内容等を検討している旨を説明した。

4 その他

<事務局>

事務局から次回の会議開催日予定を報告した。

閉会

以上